



鶴南五分だより

No. 4

長崎県立鶴南特別支援学校五島分校

令和6年3月22日

あいがとうございました

今年度は、制限のない行事が復活し、児童生徒、職員、保護者の皆様方と、活気あふれる学校生活が少しずつ戻ってきたことをうれしく思います。この「鶴南五分だより」でも様々な子どもたちの活躍をお届けすることができました。一年間を通して、保護者の皆様方にたくさんのご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

4月には新しい仲間を迎えてスタートします。来年度も、子どもたちの輝く姿をお知らせできるよう頑張りますので、ご協力よろしくお願いいたします。

小中学部

卒業生を送る会

2月27日（火）に、五島市内小中学校の特別支援学級との交流会「卒業生を送る会」が4年ぶりに実施されました。玉運びやじゃんけん列車などのゲーム、「ともだちになるために」の大合唱、最後には卒業生へのプレゼント贈呈や卒業生からの挨拶がありました。久しぶりに会う友達、初めて会う友達、たくさんの友達に緊張しながらも、様々な活動を通して、他の学校の児童生徒と楽しく交流することができました。



卒業おめでとう会

3月8日（金）に、小中学部の「卒業おめでとう会」が行われました。在校生からは、それぞれのクラスの個性輝く出し物や手作りプレゼントが贈られ、「おめでとう」「ありがとう」の気持ちを込めて、卒業のお祝いをしました。卒業生からは、在校生も一緒に手形を押した卒業記念制作のベンチが披露されました。別れは寂しいですが、集会は賑やかで楽しい時間となりました。



手作りプレゼント

卒業記念制作

～集合写真～

小中学部 卒業証書授与式

前日までの雨も止み、やわらかな春の日差しが感じられた3月12日(火)、小中学部卒業証書授与式が行われました。在校生は、式歌、校歌を大きな声で歌い、心を込めて別れの言葉や拍手を送って、卒業を祝うことができました。校長先生からしっかりと卒業証書を受け取った卒業生の姿はとても立派でした。会場が温かい笑顔と拍手に包まれた素敵な卒業式でした。卒業生には、これまでの感謝の気持ちと自信を胸に、新しい世界へ羽ばたいてほしいと思います。

入場



卒業証書授与



別れの言葉



式歌



退場



高等部

よせんかい 予餞会

今年度は、おもてなしの学習の一環として、卒業生の門出を祝う1、2年生からの手料理を作業室でいただきました。2年生がカレーとシチューを、1年生がベビーカステラを作りました。どれもとっても美味しく、心の込もった料理に3年生は、あっという間に平らげていました。

午後からの予餞会では、それぞれの学年や先生方から思いの込もった出し物やプレゼントなど、心温まるおもてなしに、卒業生だけでなく、どの学年も思い出に残る予餞会となりました。



1年生からは、「五島分校あるある漫才」「応援歌（Happiness/嵐）」のプレゼント。漫才はとても面白く会場が大爆笑に包まれ、応援歌は卒業生も一緒に歌って踊りました。



2年生からは、「お笑い芸人クールポコのネタ」と「ダンス（唱/ado）」を披露しました。毒舌ネタに卒業生は大ウケ。卒業生のお面を付けたダンスもとても面白かったです。

3年生は、感謝の言葉を動画で流し、「歌（島人ぬ宝/BEGIN）の替え歌」を発表しました。他にもサプライズで、先生たちから合唱のプレゼントや、昨年度お世話になった先生方からお祝いのメッセージ動画などもあり、思い出に残る予餞会となりました。



かいようせい

そつぎょう

いわ

海陽生からの卒業を祝う会

2月22日(木)に、海陽高校生徒会主催で、卒業を祝う会がありました。今年も、海陽生から卒業祝いに**胸花**や**フォトフレーム**など心温まるプレゼントを頂きました。五分からは、作業学習で作ったメモ帳やコースターなどをプレゼントし、互いを祝福する心温まる時間となりました。海陽生の皆さん、ありがとうございました。



そつぎょうしょうじょじゅよしき 卒業証書授与式

3月3日(日)、第9回卒業証書授与式が挙行され、6名の卒業生が、3年間通った五島分校高等部を巣立ちました。数年ぶりに制限のない卒業式で、来賓の方々もご参列の中、緊張した面持ちの卒業生でしたが、堂々とした卒業証書を受け取る姿は勇ましく、在校生の胸にしっかりと刻まれたことと思います。また、送辞や答辞、式歌も、大変素晴らしく、感動的な卒業式になりました。**三年生のみんな、卒業、おめでとう！**

卒業証書授与式



そつぎょうしょうじょじゅよ
卒業証書授与

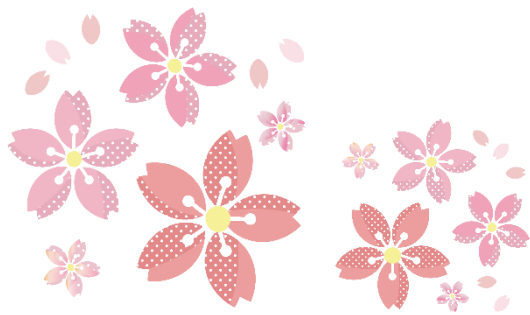


そうじ
送辞

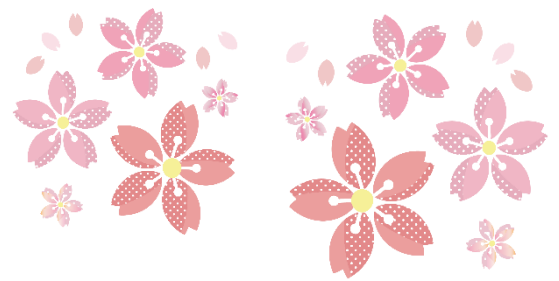


どうじ
答辞





卒業するみなさんへ ～「はたらく」とは～



教頭 中溝 浩二

最近、少しずつ暖かくなっていくのを肌で感じ、季節が一步一步確実に春に近づいていることを実感している今日この頃です。学校といえば、小中学部、高等部ともに卒業式に向けた準備や練習が佳境に入り、学校全体が少し「ピリッ」とした空気感に包まれています。今年度の五島分校は、小学部は卒業生が在籍していませんが、中学部は3名、高等部は6名の生徒が卒業を控えており、卒業生を心から祝福して送り出そうと五島分校が一致団結して卒業式に向けて進んでいる状況です。

さて、私は高等部の生徒に向けて話をする機会が多々あります。その中の一つに「現場実習壮行会」があるのですが、その内容は「実習の目的」や「実習の段階（1年生は「知る」2年生は「考える」3年生は「決める）」、現場実習に向けての心構えなどです。現場実習は高等部の生徒にとって最も大事な学習の一つであり、進路選択の上で重要なウエイトを占めていることを生徒たちも理解しているので、いつも真剣に聞いてくれます。

あるとき、私は生徒に向けて「みんなは何のために働くの？」という質問をしました。大半の生徒が「お金を得るため」「生活するため」「夢をかなえるため」など、こちらが予想した答えを返してくれました。確かにどの答えも間違ではないし、そのような答えを想定していたのも事実ですが、話をしていく中で何か腑に落ちない、自分の中でじっくりこない気持ちが芽生えました。「何故だろう？」……。そのモヤモヤした私の気持ちと、まとまらない考えを整理させてくれる本に、最近会うことができました。

「中学二年生の息子に……」と思って手に取った一冊の本の中に、このような一節がありました。「いろいろな仕事の共通点は何だろうかという視点で世の中を見てみると『どんな仕事も誰かの役に立っている』『誰かににとって必要なもの・ことが社会の中で仕事として存在している』ということが分かります。私たちは一人で生きていくことができない。だから生きていくうえで必要な手助けが『仕事として存在している。そう考えると世の中ってとてもシンプルだと思いませんか？なぜ僕らは『働く』のか、その答えの一つは『助け合いでつくられるこの社会の一員になるため』です。社会の中で助けられるだけではなく、自分も自分ができることをして誰かの役に立つ、社会に貢献する、それが私たち一人ひとりのすべきことなのです。『自分なんか誰の役にも立てないのでは……』などと不安に思う必要はありません。しっかりと自分の将来を考えて生きていけば、必要とされる場所は誰だって必ず見つけられます。」

働いて対価を得ることは社会人にとって当然の営みです。だけど、それだけではないということ。周りの誰かに「あなたは私にとって必要なのだよ」と思われた時点で、その人は誰かの心の支えであり、その人の役に立っている存在であるはず。その人ができることで、周囲の人の心や体を支えたり「ありがとう」という気持ちを芽生えさせたりすることも「はたらく」ということになるのではないのでしょうか。人によって考え方は様々ですが、モヤモヤした自分の気持ちが「ストン！」と落ちた瞬間でした。

卒業生の皆さん。皆さんの周りには保護者の方々、友達や先生方など応援してくれる人がたくさんいます。自分の力を信じて、自分ができることをやっていきましょう。いつまでも応援しています！